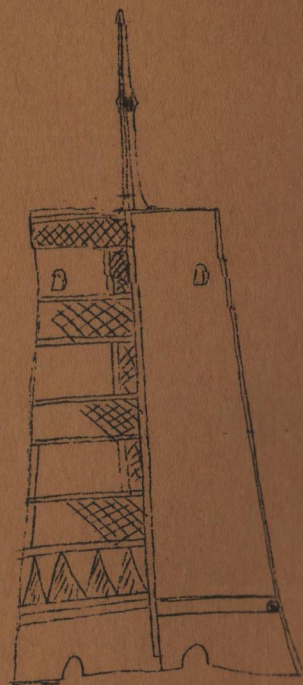
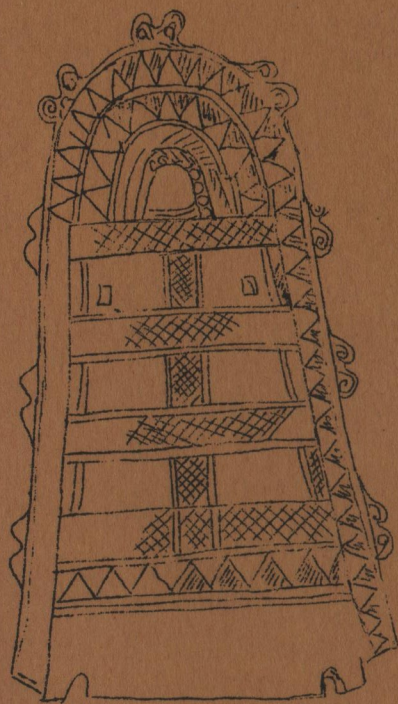


# 城西考古の歩み

第4部 草創期 1969



第4期生 共著

城西大学考古学研究会

城西考古の歩み

とうとう四回目の登

行となりました。

この書では昭和四十

四年の出来事につい

て書かれてあります

が、当時いろいろな事

がありました。まず三

井、大学そして考古研

究、卒業生が誕生し、共

に卒業生の骨組みが

出

来た感じがあります。

そして考古研では、五

ヶ年計画も、この年の

夏季合宿で終らし、今

まで発掘一本で行な

われ、いた活動も、こ

の年十二月には始め

ての報告書「堀込遺跡」

を、越生教育委員会教

育長新井清次郎氏と

共に作製しており、今

までは、創草期と作製

されてきた考古研究  
 書城西考古の歩みも  
 本書から(幼児期)と唱  
 えることがお茶まし  
 )。ちつと母親の体内か  
 り生れ出てきた純粋  
 ごとくがままにけが  
 れのない、世の中の事  
 は何もわからなワク  
 ラフが見てゆく世界  
 として見るべき世界  
 は……、そしてこのよ  
 ちよち歩きのクラブ

が、これからぶつかろ  
 うとしていいる試練は  
 ……ともかくクラブ  
 でおまえは生まれた  
 のであり、おまえには  
 生命が与えられたの  
 だ。そして私達は、そん  
 なおまえの心臓であ  
 り目であることに努  
 力したい。

昭和四十七年三月吉日  
 四期生一同

☆ 目次 ☆

|            |     |      |
|------------|-----|------|
| 新入生紹介      | ……… | P 1  |
| 模擬発掘       | ……… | P 7  |
| 新入生歓迎会     | ……… | P 13 |
| 夏期合宿仲小坂遺跡  | ……… | P 29 |
| 序編         | ……… | 〃    |
| 発掘活動状況     | ……… | P 39 |
| エピソード      | ……… | P 51 |
| 対決 新しき村    | ……… | 〃    |
| エノンパ 風呂    | ……… | P 59 |
| 白い布事件      | ……… | P 67 |
| 考古学研究会 回想録 | ……… | P 73 |

新入生紹介

今年の新入生は、全員  
で十四人、初めはリ部会  
の時、新入部員の方か  
多かったです。  
経済学部では、和田、山  
崎、青山、奥川、山中  
数学科では、武田、大沢  
遠藤、依田、高山、松山  
石浜  
化学科では、酒井、朝倉  
しかし、今日、我がクラ  
ブで活動して、いるのは、  
六人、そこで新入生紹介  
として、はこの六人にと

どのたいと鬼う。  
一期生は、我々四期生まで  
我がクラブは、変人が多か  
った。おかつ五期生であ  
る新入生も又変人ばかりで  
ある。  
これらの変人の集団が、こ  
のクラブを作り育てたので  
あるから、変ったクラブが  
来ておられます。あま、  
先生も又つ、  
では、まず和田氏を紹介し  
よう。  
彼は、仲小坂の発掘以来

春期合宿

|       |         |         |         |        |         |       |         |        |       |        |       |
|-------|---------|---------|---------|--------|---------|-------|---------|--------|-------|--------|-------|
| ◎ 嵐の前 | ◎ 合宿その一 | ◎ 合宿その二 | ◎ シルエット | ◎ 卒業式  | ◎ 合宿その三 | ◎ コバイ | ◎ プラモデル | ◎ ミスタ  | ◎ 無題  | ◎ 作者紹介 | ◎ 後書き |
| ----- | -----   | -----   | -----   | 中川さん+1 | -----   | ----- | -----   | パトフェクト | ----- | -----  | ----- |
| ----- | -----   | -----   | -----   | -----  | -----   | ----- | -----   | -----  | ----- | -----  | ----- |
| P     | P       | P       | P       | P      | P       | P     | P       | P      | P     | P      | P     |
| 75    | 79      | 81      | 85      | 88     | 91      | 95    | 96      | 101    | 105   | 111    | 111   |



秩父のおだそうです  
一 根岸と違って山中  
さん は市内だそうです  
才一 もくもくと仕  
事に打る込め 今  
ヤクラブの大姉ご  
アモ 彼女にいわ  
せれば 私も女で  
すから やさしいのよ  
ということまで  
後輩の皆さんどうお  
もいますか 山中

さん は 越生の宿  
でのエピソードがあ  
ります  
ヨッ 依田一ヨッ干ニ  
先輩、後輩に親しま  
れ、我クラブの人氣  
者、仲小坂の発掘の  
時など、彼女の笑い  
声が発掘の為、疲れ  
切った皆の心を  
らげてください

仕事の面において  
彼女にまかせておけ  
ばよろかありませ  
んよ 朝倉氏  
： さて最後にむかえ  
しは！ 一見おと  
りしいうで、おと  
かの人物 彼女の  
言で心に痛むおと  
に我々卒業生は  
人々二人ではありま  
せん 一人の一人

で、ハイ、  
その一言 彼女の  
体重は 和田君と  
同じだろす 参  
考まで、一ハナに  
推定だろうで、  
推定以上か我々考  
ク、今に入った新  
生で、今ヤクラブ  
黒柱、これからよ  
うしく

5

模範発振

部会記録

模範発振リ件

場所 元女子寮横  
日時 月 日

主旨

一年生に對する  
発振予行演習一小时的

わら二年生が後輩に  
對する初めりのしこ

さて当日

諸先輩方は 二年生以下  
新入生に對下

する発振の第一歩、基本を  
せよ。胸ははずさず、覚えこま  
す。姿勢は、背骨に走らせ、息を  
つよ。腕は、顔がズラリ勢揃い  
し。まっすぐ、顔がズラリ勢揃い  
た。のけ、常に遅れをとつて  
い。は、速く、発振用具を取り  
揃え、現場へと急ぎ足取り  
に。は、あり、前にか

長所に注意をむけてほしい  
いらまがえせば、新入生  
の奇をみつけることがで  
まじかっただのである  
うぐです、その通り、新  
入部員は十数人はい子ほ  
ずであつたので、とこほ  
ろが連体のせいもある  
のか、奇を見せられたほ  
人ほどであつたか、四  
数を覚えていたのほ  
ろれでけこの発掘には  
参加していかつたとい

うことこので、ある先輩  
言わくこの発掘の主旨は  
？この連休にあつたの  
ほ？とさかんに愚痴をこ  
ぼして、いかんがわかる  
力気が下るかし、か、一  
年生諸君であつた、初  
の後輩を得、自分達が先  
とい、立場にとらされて、  
うれし、こわし、でこの  
に望んで、ものが、背負  
げをくわされてしまつた  
ふ、あの子、か、そんな

て、イ、ヤ、して、いた、の、で  
は、教、は、う、い、が、や  
つ、て、来、た、新、入、部、員、に、中、し  
訳、が、長、た、ら、い、我、々、が、教  
え、ら、れ、ま、が、り、な、り、に、も  
覚、え、て、ま、た、全、部、を、出、し、ま  
り、こ、の、二、日、間、を、有、意、義、に  
す、ご、し、て、も、ら、お、う、と、気  
を、こ、り、な、お、し、発、掘、に、と  
り、組、ん、だ、の、で、あ、り、ま、し、た  
ハ、立、て、ま、す、と、し、二、干、と、組  
二、日、で、は、終、ら、な、い、と、し、  
オ、イ、オ、イ、終、ら、な、い、と、し、

これ大変だ、千代い  
も、し、わ、え、で、お、の、え、や、つ、て  
ハ、て、く、れ、よ、こ、こ、で、新、入、生  
「ト、し、二、干、と、は、り、ん、で、す、か」  
「発掘を始めて、おのれ、  
目守、す、と、し、て、掘、る、所、だ、と、  
あ、を、先、輩、」オ、イ、一、年、生、  
壁、は、ピ、ツ、リ、と、直、角、に、掘、り  
下、げ、る、と、壁、は、た、た、ま、  
か、つ、て、ま、り、か、わ、ら、な、い、  
一、年、生、一、枚、か、わ、ら、な、い、  
「オ、イ、一、枚、か、わ、ら、な、い、  
と、い、う、ん、だ、し、先、輩、土、器

P



んふにろの私さ  
巧しはのもか  
早くとく人ウ目  
からんはの目  
らふこ月老さ  
か一運かす  
い私一コす  
コ一バキ  
る一アキ  
れこくさ長に

百六に天定  
年度新入生  
たいきさつ  
るの常連  
ニグ  
フ  
ヨ  
ろ  
の  
す  
三  
→  
千  
酒  
つ  
い  
か  
り

りにはかいつ酒千→三すのろよ  
カは家たけ井前たヤれふカ  
す諸にたの井前たヤれふカ  
バ一どでのの一時あセいう一  
ケ人りた、は、私カ家を見川  
に才っ、回、私カ家を見川  
尋い、よ、私カ家を見川  
む、長、カヤ、私  
て、カ、に、私  
た、た、家、私







その後、戦争が、ほいほい  
 かり、いれ、つ、かの穴、ほいほい  
 かい、さ、れ、ろ、こ、に、ほ、い、ほ、い  
 下工場が、一、く、ら、れ、中、島  
 飛行機が、一、せ、に、戦、を、つ、く  
 戦、の、発、着、地、も、自、穴、の、横、に  
 あり、ま、下  
 人、々、は、自、命、達、の、文、化、村、の  
 守、り、を、立、ち、上、り、人  
 々、の、中、に、は、自、命、達、の、手  
 で、自、穴、を、調、べ、よ、う、と、す、る  
 者、も、下、ま、し、た、と、一  
 時、の、時、村、の、人、達、と、一

訂正、した、この、郷、土、部、の、調  
 査、一、月、から、八、月、五、日、ま、で、二  
 十、一、日、に、お、つ、て、行、な、れ、二  
 週、の、調、査、に、よ、つ、て、二、百、十、九  
 個、の、調、査、に、よ、つ、て、二、百、十、九  
 き、り、し、た、空、の、種、類、と、夫、マ、の  
 教、が、確、め、ら、れ、ま、し、た、  
 群、し、い、説、明、は、一、資、料、が、あ、り、  
 手、下、か、ら、お、け、下、さ、い、ろ、お、  
 終、り、ま、す、前、置、ま、が、説、明、  
 ぶ、長、く、な、り、ま、し、た、が、こ、こ  
 下、本、題、に、も、ど、り、思、い、下、  
 換、気、を、お、り、たい、と、思、い、下、

集合時間十時  
 集合場所東松山駅大鳥  
 尾前

右の様に定められ、  
 日、や、つ、て、く、ろ、か、皆、時、間、通、り、  
 に、田、君、は、場、所、が、場、所、ど、け、  
 に、案、内、役、に、お、つ、て、ま、い、か、  
 な、け、れ、ば、な、ら、な、い、ほ、い、に、  
 あ、い、な、り、ま、し、た、九、時、三、  
 十分、の、音、が、家、の、前、で、止、ま、り、  
 一、ク、の、音、が、家、の、前、で、止、ま、り、  
 一、ク、の、音、が、家、の、前、で、止、ま、り、

に、い、つ、て、誰、か、わ、か、る、と、  
 け、た、姿、形、を、し、た、み、な、れ、兵、男  
 が、又、ド、ツ、と、現、わ、れ、一、瞬、  
 を、の、ま、れ、て、し、ま、い、ま、し、た、  
 そ、れ、が、ま、れ、て、し、ま、い、ま、し、た、  
 で、あ、り、ま、し、た、ま、い、ま、し、た、  
 か、の、ま、れ、て、し、ま、い、ま、し、た、  
 沃、田、君、で、は、な、く、ま、い、ま、し、た、  
 ア、二、千、ヤ、ン、で、あ、り、ま、い、ま、し、た、  
 解、の、な、い、よ、う、に、あ、り、ま、い、ま、し、た、  
 る、と、前、夜、ト、ナ、リ、あ、り、ま、い、ま、し、た、  
 カ、が、あ、っ、た、カ、で、あ、り、ま、い、ま、し、た、  
 そ、の、ア、ニ、干、ヤ、ン、の、顔、面、に、は、  
 包、帯、に、顔、が、つ、い、て、い、ろ、う、

形相をしていたのであ  
りニス。さて沃田君もきたので  
案内役は、馱に誰が来たか  
か、様子をみに行くか  
か、と二人はいびきうかが  
から、ゲタバキで馱に向  
つて、いぼのふし、馱  
と、ここかと、ここかであ  
り、もう気の早いものが  
鳥居の前にあつた。は、あり  
ま、せんか、つれは、れ、一  
年

生でし、二年、三年かき  
つ、沃田君、話、聞くと、三十分  
前に着いた。う、す、流石  
一年生は、時間を守る、十時  
五分、残り、羊分、は、罰金、もの  
早く、来た、人、達、には、電、いの  
で、先、に、連、れて、い、つ、沃田君  
に、事、に、残、り、は、私、か、つ、  
げ、つ、つ、い、く、こ、と、に、し、ま、し、  
歩、い、つ、も、三、十、分、あ、ら、う、一、時  
バス、は、あ、る、に、は、あ、る、が、一、時

間に一本下は、ネー  
り、ま、し、た、の、で、足、腰、は、ん  
れ、ん、の、為、と、い、う、わ、け、は、  
はい、か、私、達、一、私、堀、倉、さ、ん、  
原、田、さ、ん、遠、藤、さ、ん、高、  
橋、さ、ん、一、番、最、後、の、一、人  
を、待、つ、為、に、大、鳥、居、に、  
一、事、二、十、分、や、つ、ま、し、  
た、の、松、干、ヤ、ン、コ、ニ、ク  
イ、マ、セ、ニ、ど、う、も、お、ま、  
は、

せ、息、切、つ、て、か、け、て、ま、し  
た、結、局、吉、見、の、百、穴、に、皆  
が、集、ま、つ、た、の、は、十、一、時、  
ぎ、で、し、た、総、勢、二、十、余、人、  
入、場、料、三、十、円、私、は、先、生、の  
名、前、を、認、り、タ、ダ、で、皆、を、入  
れ、た、の、は、い、い、か、その、場、で  
先生、に、見、つ、か、つ、し、ま、し、  
の、で、あ、り、ま、す、そ、し、て、報、告  
書、を、売、つ、て、く、れ、と、せ、が、ま、れ  
た、の、で、あ、り、ま、す、か、し、か、し  
先生、言、わ、く、つ、ど、う、せ、沃、田、か  
や、つ、た、事、だ、う、し、う、か、ね  
え、奴、だ、管、理、人、が、二、三



アー納得 ぞういえげ  
百穴には入らず下の駐  
車場で車からおりず山の  
上の方ばかりかいてる大  
変なまじりかいてるこれ  
らの奴もろの口かろう  
いうことだっただのか  
ここへ来た納得のソロ  
口お昼時サの子がっく  
ってきてくれば弁当を  
るげ歓迎の本意を  
るははいらぬでじゆ味  
が花はひしがり散る

しまつたんだって  
子はいさし倉料もあり  
まして酒もある酒は  
オーイ酒酒酒酒酒酒  
ら大関だいの今の大関は弱  
いんだってね黒星つつき  
だまらがいだはとんだ失敗  
子ほコニにの席上での皆の様  
が一年常にくうであまは  
とかり年の生はうであまは  
とたり年の生はうであまは

か、まど猫から虎に  
奴は、いももんざら  
人ぞ知るもんざら  
酒も空弁当も空  
お午うにた祈で  
ホロ酔いかげん  
我だ、酔いれはと  
とで石室をこわし  
た地下工場跡の鬼  
ユエして工場の跡の鬼  
頂上ではいい気持  
歌の上でいい気持  
けのほりいさる私  
る者もある私と  
とととととととと

し、根岸君の三人は皆  
かといいうこと、ソッ  
けあし、松山城主のお  
か、見字に、侯と、い  
すれ、奥ま元が、危な  
の、奥ま元が、危な  
ひ、奥ま元が、危な  
キ、奥ま元が、危な  
不、奥ま元が、危な  
と、奥ま元が、危な  
か、奥ま元が、危な



に入り込むと、いささ  
 か方向感覚が狂ってし  
 まいそうなのであつた。  
 幸いにも、前年度の上  
 台山と異なり附近が消  
 毒されていた為、蚊に  
 対する恐怖は薄らいだ  
 ものの、世の中、うま  
 い様に事は運ばない。  
 形通りの地鎮祭を済ま  
 せた後に雑木の伐採か  
 ら初めたのであるが、  
 作業を開始したたん  
 に女性の美容の敵、又、  
 ちんぼ、突然、目の  
 前、急に、切った、  
 中も、張りの発掘だ、  
 めくく、五ヶ年計画の  
 さあ、現場のあちこち  
 が発掘現場のあちこち  
 に生えていたのである  
 云えば、短刀直入に  
 事を云わね、短刀直入  
 手ごわい相手が登場し  
 た。こんな回りくどい  
 男様に、シッても例の  
 のダムシに必通する

気が消え、味で、ほんの  
 少しなれど、後ずさり  
 したものである。(何  
 と云つても、あのか  
 コ、ここをた日にや  
 験してみない、と当  
 わかり、つこない、か  
 しかし、我等、考  
 の勇士と云うか馬鹿  
 と云うか、どちらか  
 と云うか、成り振り構  
 わぬ荒武者共は、何  
 くぞ、とばかりウ  
 ルシちゃんに抱き  
 いていった。人間た  
 るものや、気がな  
 るもの、いや、あ  
 と、恐しいもので、あ  
 れ程、威に思えた、  
 ルシちゃんも、また  
 たく、直に根こそぎ切  
 り倒さ、出でしまつた  
 しかし、敵もサルも  
 のひっかくもの。唯  
 黙つて切られては、  
 存かっただ、心配して、  
 の神様が心配して、天

れを通り、ワルシち  
やんの被害者が出て  
しまつたのである。  
名譽のオト号犠牲者  
は酒井君。一年生で  
バツグンの馬力を持  
つていたもの、ア  
ツサリ、ウルシちヤ  
んの返り討ちになつ  
てしまつたのである。  
あの時は、いか夕  
つな北海の熊こじ、  
考古のゴキブリちヤ

んも片なしであつた。  
又、昨年の工台山  
で味を覚えたのか、  
雑木の伐採希望者が  
続出、少しでも残し  
ておいて欲しいとの  
地主さんの願ひも空  
しく、我々、考古の  
モリ連は競つて立木  
に挑み、オノの切れ  
味をば試さん、とば  
かりに、試さん、とば  
夕となぎ削してしま

先生の頭を痛める結  
果となつてしまつた  
のは申し訳なく思つ  
ている。此の場を利  
用してお詫びを云わ  
せて貰います。(さぞ  
かしく補償が大変だつ  
たでしように……)

なる。人間が変つ  
た様に、にぎやか  
なる。増してや、話  
が地主の娘さん、栗  
ちやんの事となる  
まるで、蜂の巣をつ  
ついた様なにぎやか  
さであつた。そして、  
いつとも、その話題の

の作業中、黙々と働  
らいていた考古の部  
員達も休み時間も

先輩がいた。(今は遠く  
オリンピックで

札幌の空を照らして  
いる。凡の便りに南  
いた。か、南かない  
か、……  
又、あいも変わら  
ず、合宿恒例の基本  
型やらテシパーシ  
用かれる。例によっ  
て被害者は新入部員  
たちである。カモ  
にこれた連中は、云  
うと……並のヘル  
ムットトびや帽子の役

なんて果しそウに無  
い。ジヤイアント武田  
君。今では当抵想像  
も出来な程のスタ  
イルリストであつた乳  
齒ちやんこ。和田君。  
千葉県銕山のお姉ち  
やんこ。ちヨツチン。  
いや、ちがった。依  
田さん。秩文の市内  
の生まれだ。そう、山  
中のフミちん。等  
と数えたら、そりの無

い新入部員。此れに  
対して、昨年同じ様  
な立場にあった者達  
は、調子の良いもの  
で、去年の月返した。  
とばかり、これでもか  
もか、これでもか、と  
ばかり新入生をじら  
せたものである。新  
入部員達も、基本型  
やテシパーシの問題  
の判明が死活問題で  
でもあるかの様に作

業に負けず劣らずの  
エネルギーを傾けて  
いた。

。1日の作業が終了  
する。学校のスクリ  
ブルバスが迎えに来  
る。スクリブルバス  
所に乗り、大学の合宿  
所に向う。その帰る  
途中が、又、ヒと騒  
ぎ。ののチャン、の  
のチャン、とばかりに

スレちがう人、それ  
が女性にみるや、そ  
の騒ぎは蜂の巣にこ  
ろでは無い。しまい  
には、お婆さん、小  
学生と、年齢の区別  
さえなく、なる程の元  
しレリ振りである。  
こいには流石の運ち  
やんも音をあげ右折  
の所を何度左折しそ  
うになつた事が。助  
いづも運ちやんの助

手席近くにいれた小生  
は、その為、長年の休  
まる暇が無かつた。  
（チヨツト調子良すぎ  
たか？）  
。さて、我々は合宿  
の以前から、部室の  
整理棚作りをやつて  
いたが、それが終つ  
ていなくなつた為、  
有志が集つて、夜な  
べ仕事として作業を

を大統領詳しくは大  
棟梁、天田洋君を棟  
梁に押し立てての作  
業である。日昼の暑  
さの中での発掘の後  
にやる作業はあつた  
眠くつらい仕事であ  
つたが、無事仕上げ  
た時の、全員での組  
み立て作業の時は、  
何とも云えない嬉し  
さで一杯だつた。

此れは有志の人達の  
事で、他ではものす  
ごく楽しい夜の生活  
があつた。513号室で  
の怪談、夜中の毛写  
シ、仕入れ、マジヤ  
ン、ギター、トラン  
プ、花札等々。  
その他、あけとあ  
らゆるゲームを持ち  
込んで青春の一夜を  
飾ろうと、皆、必死

(?)で遊ば勉強をした  
恐い出がある。

。我々の合宿にあつ  
ては、必ず何らか  
の歴史的なニース  
が発表されてゐる。  
かつて、その億内事件  
やハイゼックに続  
いて今回はアポロII  
号が人類史上初めて  
の月面着陸に成功し  
た。  
いつかの合宿

にあつては、皆が作  
業をし乍ら、身だけ  
ラジオに向けてその  
状況を聞いたものだ  
が、今回に限りに大  
学の宿直室にある予  
レビにかいりついで  
見る事が出来た。  
此処で林正樹が  
の名言をば……船長  
私の「歩は小さいが、  
人類の「歩は……」  
名言ですナ……

さて、初めに遊び  
や休みの時の事を並  
べたので此処では  
ひとつ、紙面を引き  
締めてみよう。  
我々は、過去四回  
の発掘に於いて、ト  
レン午を設置、遺跡  
その他の発掘活動を  
行なつて来たが、今  
回は先生の指導に依

しての作業方法を取  
つた。此は、一  
定区域に正方形の枠  
を設定し、ひとコマ  
おき、斜めに掘り  
進み、住居の立ち上  
り等、何らかの関連  
が見出された地奥に  
て、その箇所を全面  
拡張し、その遺構を  
確認するといつたや  
り方である。

○ 件小坂遺跡は、広  
さ約300坪程で、その  
中、1、2、3、  
4号址が見つけ出さ  
れた訳だが、各自が  
1グリッドに入り込  
み、大胆且つ細心の  
注意を払って掘り進  
む為、少しでも疑問  
が生じると隣りの仲  
間を呼び臨時ミート  
イングをやり左右の  
関連を見乍ら掘り進

めるのである。それ  
でも、尚且つ分らな  
いとなる。田「ワイ」  
とばかり、ケモノに  
も負けぬ位の大声で  
先生に指示を仰ぐ。  
各人一つずつの割り  
当ての為か、ややも  
するとやるみちな  
心を、我々は掛け声  
の刺激と与え合い乍  
ら掘り進んだのである。

◎ 発掘は、個人個人  
の協力を依って、組  
織的活動を続け、全  
体として初めて、そ  
の成果が納められる  
ものであると思ふ。  
そう云った意味で、  
我々は、個人的主観  
を混せてはいけない  
のである。<sup>（誤解）</sup>  
しかし、そこに我  
々の悩みのひとつが  
存在していた事を掲

げておきたい。<sup>（誤解）</sup>  
の無い様に、大前提として、団  
体活動の重要性を認め  
た上で、の事である事  
を断っておく。<sup>（誤解）</sup>  
⊗ / 日中、根っこの奴  
と取っ組み合って、  
掘り進めて来るし、  
そのグリッドに対し  
して憎らしさと同時  
に愛着の様な感情が  
湧き上ってくる。

どうしても、此処の  
グリッドは、俺がや  
り遂げよう。なんて  
考えが起こって来る  
のである。しかし、  
ある程度、作業が進  
み、「どうやらメドが  
立ちそうだと云う時  
に限って、オトイ、  
埋め戻し部隊集合」  
の号令が掛かる。  
もう少しで、出そう  
だゾ！ あと何セン

チで完型土器が数千  
年の夢から覚めて来  
るんだ！等と自分に  
去い痛かせて握り統  
けたのレ……  
その号令にそむく訳  
にはゆかない。自  
分が我儘をやったら  
俱樂部全体のペース  
がくずれてしまふの  
だ。後髪をひかれ  
る思いで埋め戻し。  
早く元の所に帰って

やりたい。そう云っ  
た身持ちが知らず知  
らずのうち埋め戻  
し作業をハイペース  
にしていく。  
埋め戻しも、ダンゴ  
の他、各個人が、  
自分の限界に挑戦す  
る良い機会となる。  
他人の埋め戻し作業  
を見ていると負けじ  
魂が渾々とにじみ出

て来る。正直云って  
苦しい。逃げ出して  
しまいたい。  
そんな考えが何度と  
なく頭を持ち上げて  
くる。しかし、その  
都度、俺が苦しむ時  
は、誰もか苦しむん  
だ。と云い聞かせて  
皆が頑張ったのであ  
る。一刻も早く元の  
所に戻ろうと考えるな  
がら……

ようやく、一部の埋  
め戻しが終了！急  
いで元の地に戻る  
とせつかく掘りかけ  
ていた所に既に完  
全な形で遺物が顔  
を出してゐる。  
「クシヨウ！」俺が  
「リカカッ！」俺が  
と口惜しががる気持  
の反面で、「土器だ。  
石器だ。俺達が掘り  
当てたんだゾ！」と云

った感激が、次から  
次へと湧き上つて来  
て今までの苦しさを  
んで、一度に吹き飛  
んでしまふのである。  
完型石器、石器等は  
云うに及ばず、ほん  
の石器の破片でも、  
その血と汗の染  
み込んで、血と汗の染  
うと、とでもおろ  
うかには出さな  
は

掘つてみるも何も  
見つかからない時だ  
てあるんだ。(そん  
な思いをして掘り出  
した遺物に愛着が残  
らない事こそおかし  
いと思ふ。)

だ...話飛ぶぞよ。  
永か、大伴小坂の発  
掘も最終日となつた。  
運悪くその日は雨と  
なつてしまひ後半も  
終り近くなつて見  
か、大田四号址の清掃  
にてこずり、最後の  
最後に、皆が頑張る  
ことになつた。

○午後より埋め戻し  
であつたが、雨の多  
水気を含んだ土は、  
ちよつとやそつとで  
は動かさず、皆の体力  
の消耗も、その頃  
なると極限状態とな  
り、ややもすると沈  
み勝ちな我々の志気  
も、援軍というか、  
敵と云うべきか判然  
としなかり桑原先生  
のたくみなりードと最

後だ！頑張りよの合  
言葉に励まされて、  
全力をふりしぼった  
ものである。

○雨の中の全員の  
頑張りによつて、仲  
小坂の遺跡は、元の  
様に土の下に戻つて  
いっただい、元の  
発掘の度に感じるの  
であるが、その現場  
に立つた時、又、時

が終つて、その現場  
に立つた時、懐しさ  
と共に物凄いな寂しさ  
が襲つて来る。  
何故か？そこは、  
各人が自分の限界に  
挑戦した心の戦場で  
あり、又、友になぐ  
さめられた慰安の場  
であり、青春の一頁  
を飾る記念すべき祭  
壇の場であるからで  
はなからうか？

それだからこそ、そ  
の土には、何とも云  
えない情感が湧き立  
つてくるのだと思つ。

☆以上の如くにして、  
城西大学、考古学研  
究会、五ヶ年計画は、  
S44、8、1、四号址の  
埋め戻しを最後に幕  
を閉じた。終了と同  
時に部員は、皆、飛  
びかき先生、飛

がっつき、胴上げをし  
た。先輩達も次々に  
空に舞う。皆の目に  
は涙が光り、初めて  
成し遂げた考古学研  
究室の一大計画の完  
遂に参加できた事の  
喜びを、誇りを嘖み  
しめていた。  
我々は、その時、部  
員の一人、心の  
の中に考古学研究会  
の、更に次の段階の

ステツコを踏もうと  
の決意が吹き出して  
いるのを確認し合っ  
たのである。

振り返って、以て  
五ヶ年計画も、件小  
坂で、最後までな  
訳であるが、我々の  
俱樂部との結びつき  
は、何だか、のるか  
り此処で、もう一度  
返って、みる必要が

あるのでは無いか？  
学肉のつながり。友  
人との結びつき、そ  
の他、10人10色の目  
的があるであろう。  
しかし、分る事は、  
我々の青春の一面  
を記すに充分な要素  
を持つたサークルが  
此処に用意されてい  
るといふ事である。  
せっかくなら、有効  
に用いねば、もった

い無いはないか？  
皆、切磋琢磨して行  
こうではないか。

尚、合宿が済んで、  
合宿期間中に記す、  
合宿日誌の書き方に  
ついて、再考を望みた  
い。過去に於いて、  
何回も先生から指摘  
されてきたが、実際  
に読んでみて、その書  
かした意味が皆目

見当がつかない。  
 合宿日誌は後日、報  
 告 書作成の時に役  
 に立つものであるか  
 ら、他人が読んで分  
 らないのは、日誌を  
 書くのも、なんたる  
 ちや、である。

以上

散文調

乱文調

×××××調

な考百の

歩み

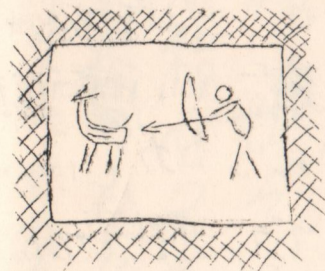
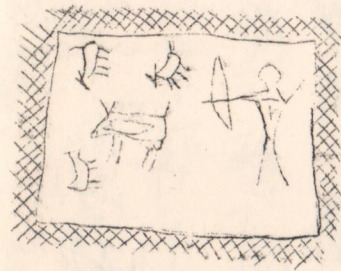
ヨクヨクのケドリ足 仲小坂

編を終了し、左楯に於  
 いて、井上君の名画で  
 引き締めを貰う。

サラバ

カヨナラ、サヨナラ

サヨナラ サヨナラ



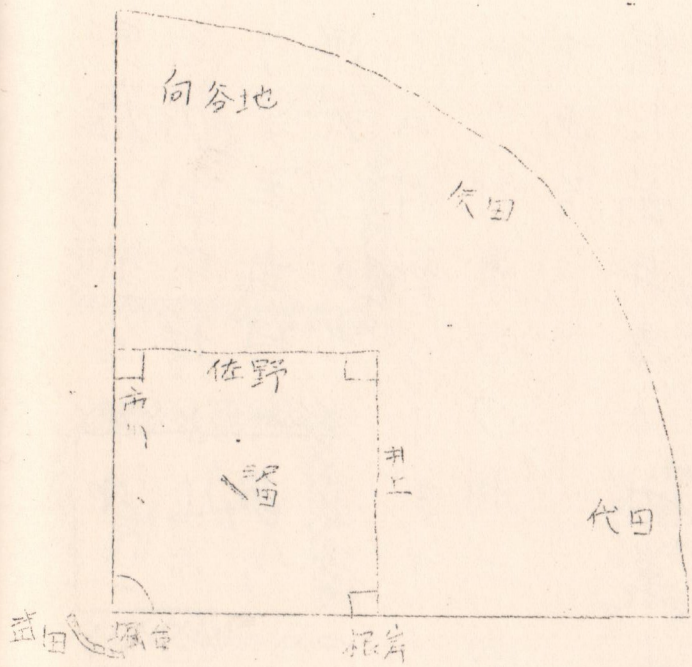
狩猟文

新らしき村

貞朝元極中の恒例  
 の行事である新らし  
 き村との野球の試合  
 が行なわれることに  
 なった。  
 新らしき村との交流  
 が始まったのは一九  
 六七年度のオチ三回  
 振が新らしき村で行  
 なわれたのがキッカ  
 けである。

野球の試合もオチ三回  
 元極を深掘りとして今  
 度もオチ三戦目である。  
 過去、我が考古学干  
 ム対新らしき村  
 ムの対戦は〇勝二敗  
 である。  
 特に前年度力対戦に  
 おりては女性軍の盛  
 大なる応援にもカカ  
 わらず十六対一の大  
 差で完敗。

今回のオーストラリア三戦は、過  
 去の汚名を挽回する  
 ために考古最強のチ  
 ムを編成し、前年  
 のオーストラリアに  
 対し、オーストラリアの構え  
 新らしいオーストラリアを  
 ぶえたのである。  
 オーストラリアメンバ  
 ー。一番、根岸。二  
 番、佐野。三番、市  
 川。四番、沢田。五  
 番、向谷地。六番、



井上。七番、矢野。  
 八番、振合。九番  
 代田。

試合は七回戦、考古  
 先攻、新らしい村の  
 後攻で開始。  
 今回の試合の我がチ  
 ムの調子は最高で  
 あり、七回まで準備調  
 子に入れば勝利を掌  
 中に握っていたが、相  
 手チームの新らしいチ  
 ムから試合を九回ま  
 で延長してはどうか  
 と提案したので、意  
 気昂進していき我が

チームが断れる訳が  
 なり。  
 かくのごとく試合は  
 九回まで延長するこ  
 とになった。しかし  
 落ち穴は七回から九  
 回までの間にあった  
 のである。  
 その代表的なものを  
 一つ掲げると、  
 ツーアウト、ランナ  
 ー一塁二塁、白えた  
 バット、タクト、セ  
 ンター

フライに打ち取った  
と思ひ案心してベン  
チに帰ろうとしたが  
なうどこの時運悪く  
グラブの隅で、女  
カ人ガスカートで鉄  
棒としていたのであ  
る。その上、スケベ  
で有名な男(?)がセン  
ターを守っていたが  
結果は固知の如く  
ホルルは一直線に大  
地にぶつかってしま  
った。

った。この男、女の  
美しい顔に見とれた  
のか？女の人のスリ  
ートの○に見とれた  
のか？おかげで与え  
なくともよい桌を与  
えてしまったのであ  
る。  
この男前年の試合で  
は、相手チームの人  
員が促らなかつた為  
相手チームに入り、  
打たなくとも良い時

にヒットと打ち、身  
方を敗北に追いつ  
また今回の試合にお  
いては、我がチーム  
に加わり肝心な時に  
ヒットも打たず、め  
上エラーをし、これ  
また身方を敗北に追  
り込ませた。未だある  
これ以来、この男に  
は相手に回せば強り  
が、身方に付くと弱  
り、アタリが付け

られた。  
この男、誰れだが想  
像できると思う。  
以上の様な経過の  
末、三戦の結果は、  
また、また、また、  
敗北であった。この  
敗北が惨めに毛丸回  
逆転サヨナラ負けで  
あった。  
この試合を忘れる事  
の出来ない人は、あ  
まりの奮闘の末、ス

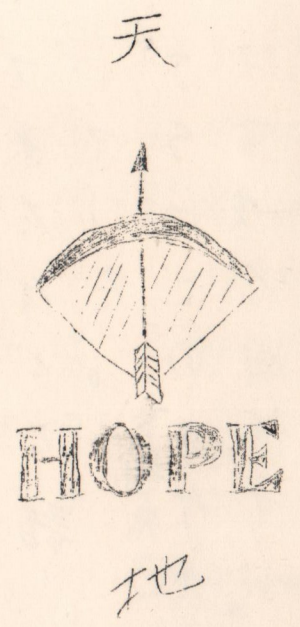
ンを破りてしまひて  
合之一時中斷させて  
しつたた堰合さん  
それと同時に身長一  
九七寸数(体重百五  
kg)とりう大ぎな体を  
利用して野球にはな  
ては存る存りバツ  
ネット兼アンパン  
とつた武田君

午後からは自由行動  
ある者は家に帰り  
ある者は下宿に帰っ  
て洗濯、またある者  
は電車に乗って川角  
を脱出し美味しりも  
のを食ったり、パキ  
ンコをしたりした  
であつたが、沢田君  
と佐野君は哀れたも  
この時代一番好きだ  
つたパキンコにも行  
けずダゲル寝子ばが

か三者は存ん  
と優雅な生活をして  
いたのだらうと想像  
すると思はげど、実  
際本人達の気持は惨  
めなものであつた。  
好き存事も出来ず、  
また皆んなが帰つて  
来る迄の時間をタダ  
くっボしてつたのが  
ある、  
夕方、我々二人は冷  
えた堅い御飯を食べ

帰つて来る人達の為  
に夕食を食堂から  
宿所の方に運んべ  
つてつた。しかし皆  
んな冷えた堅い御食  
などみおきもせず、  
美味しりものさ食っ  
て来たなどと話しを  
してつた。  
さらにはこのスケベ男  
は女性と同伴で田  
新南鈴木さん(外  
出)の店々(外)を食

べ、それがら  
 ールに行き冷たい  
 ールをグイく飲んだ  
 なども言ひふらし  
 いたので我々二人の  
 心の痛手はさうに大  
 手く有りがツクリ  
 が抜けけてし手つた  
 これ以来、我々二人  
 の発掘作業進行は違  
 るばかりであった。



コンバ、田舎  
 発掘も準備に進ん  
 での歴史に残るよう  
 出来事が起きたので  
 ある。7月20日、オ  
 ー一回卒業  
 業生、清水さん、齊  
 藤さん、長山さん、  
 空田さんの四先生  
 杭しりき裂りて発掘  
 の手伝いに来て下さ  
 った。そこで先生が

今日、夜の、外で  
 ベッキンなどして  
 ニバとトキラ、  
 ガ諸君と提案、  
 我々一同大いに賛成  
 さらにはコニパは外  
 で行なうのであるか  
 ら、女性達が、男産  
 一の準備を、男産  
 は、準備を、男産  
 食堂から運ぶように  
 といった。発掘も終

57

の過去五ヶ年間、夏  
期発掘の業とあって  
いた経済学部長の高  
級マンションに帰りユ  
ーパの準備を行なう  
事になつたが男達ほ  
んたの疲れなどなん  
かその、と言わんば  
かりた外で野球をし  
てりて暗くなるまで  
ぐに風呂に入つてし  
まったのである。前  
こ

のように経過したが  
事件は、男の入浴時  
向である一時間促す  
の向に起きたのであ  
る。すなわち、男達の  
部分には制限時間内に  
風呂がら出たのであ  
るが数人の人達が遅  
れてしまつた。この  
数人とは佐野根岸、  
沢田の三人である。  
三人は最初に風呂に

入り最後迄風呂に入  
つていた。その上、  
コンパの準備の手伝  
りを全然しなかつた  
ので女性達の怒りを  
教化させたのである  
し、がし、三人は時間  
になつたので出て出  
よつたとした時、考古  
の何何コトコトであ  
明ヤンが入つてきた  
そびて明ヤンの祈願  
に祈願と重ねる末、

一緒に出る事になつ  
たので遅れてしまつ  
たのである。話  
た、矢田ゴラーで遅れ  
たんだ。コンパの手伝  
きして遅れたんだよ  
(全)もう時間がな  
がら先に出るからな  
(矢)そんな事言ふな  
よ、待つてよ、な  
緒に出ようよ、な

らってよ、出さぞ、  
矢田ハインツを洗って  
いる最中  
矢、モラカシ待って  
ろよ。外で体を拭いて  
待ってろぞ  
矢、すぐ出るから待  
ってろよ、おれ一人  
にまするよ存！  
それから数分後  
さて、風呂から出ま  
うと思ひ着物を着よ

ラとしした時、我々の  
清潔存ハインツが見当  
うないのである。  
矢田ハインツがなりぞ  
と騒りでいると、  
根岸が、武田が持っ  
て来てしまつたんだ  
よ、と云つた。  
男たるものハツキを  
ほかおして出られる  
カと思ひ、武田、ハ  
インツ持つて来いと二  
人でどなつた。

初、だっ！おれ控最  
初から入つてたんた  
よ、最後まで入つて  
いると女達に文句を  
言われたじゃなにか！  
矢、そんな事言らな  
よ、待ってろよ、お  
れとお前達の仲間な  
いか、いそぐが、  
矢、それじゃあ待って  
るか、湯に一つ入る  
それから数分後、  
根岸、佐野兩名国臣

から出る、この時、  
すでに夕立入りに来  
ていた、根岸、佐  
野のうち一言多り根  
岸は文句を言われ立  
腹、佐野は例、調子  
で又、と出て行つて  
しまつたので文句を  
言われず。  
根、女達来てろぞ！  
早く出るよ！怒って  
ろぞ！  
矢田君せ直来て

救分間の格闘の末、  
武田がパンツを持っ  
て来たが、この時武  
田が純白のパンツを  
水でビッビッした脱  
衣場の床に落して、  
まっただので、パン  
は真黒に存つてしま  
つた。我々二人は、  
ツグツグ真黒なパン  
ツをはりて出て来た  
が、真の悲劇は、こ  
れがう起きたのであ

る、私は何も悪い事  
はしてないのに、  
女達はこの時とばかり  
りと思つたのが怒り  
を私一人にぶつけて  
来たのである。コン  
の平松君は、コン  
の上手に最初にも  
入つて最後迄入つて  
いるとはどうゆう事  
なのかなど、田  
さん、南さん、松保

ヤんを筆頭に女性軍  
全員出口に並んで悪  
口を落せた。私はこ  
れ以上小さく存れな  
い程小さく存つて、  
せ達の向を縫うよう  
に出た来た、なにも  
これ程強く頭から怒  
る事はなかりなかり  
と心の中で思つた。  
あまりにもむじい仕  
打たれ、悲常に怒

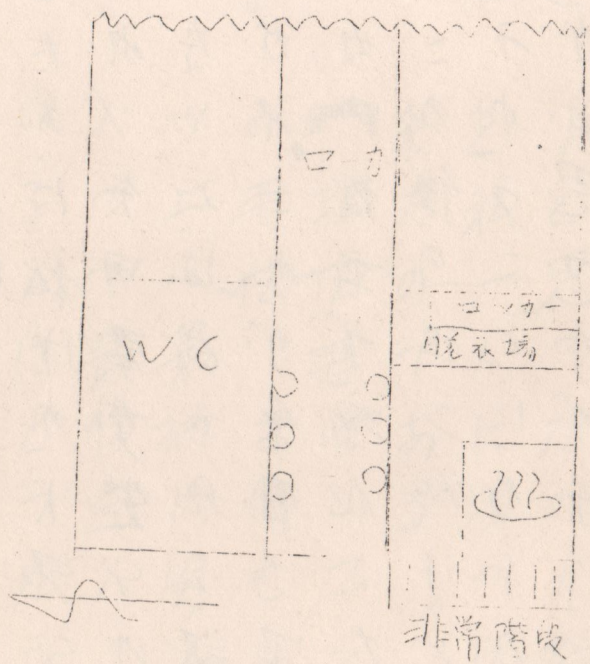
私は矢田君に付き合  
て、最後迄入つてい  
たのに、私が怒ら  
れ、矢田君が怒られ  
ないとはどうゆう訳  
か、これが原因で男  
女の対立が激化した  
この後のコンパはど  
うゆうことになすの  
かと思つたが互いの  
コンパの雰囲気は悪  
くしてはいけなると  
感じたのか、また怒

うをすぐに忘れり人  
 が多かつたのが、  
 エンパが始まると、  
 何もなかつたかのよ  
 った和気調議に経過  
 了。エンパは無事終  
 了。  
 最近、ウーマンリブ  
 をんて言葉が流行し  
 ているが、城西考古  
 には、二年前からウ  
 マンリブは存在し  
 ましたのである。

『白い布事件』

過去、四年間夏期  
 発掘中常に我が考古  
 学研究会を訪問して  
 りる東大の女傑、佐  
 々木さんが発掘の手  
 伝いに来て下さった。  
 佐々木さんの考古訪  
 問によつて我々の疲  
 れが一挙に不飛んで  
 しまひ発掘の活カが  
 湧いてくるのである

一九六九年  
 女強し 最盛期



存せらば少しでも  
 夕のルと君達には  
 さしてりるのだそん  
 な事じゃあが、ヤナイ  
 才『』発掘は遊ぶに  
 ありそし。しっか  
 りしたまえ。など  
 言われるからである。  
 さて問題の白い布事  
 件であるが、  
 午後になつて佐々木  
 さんが泊る事になつ

た事から起きたので  
ある。すなわち、佐  
々木さんの身存りは  
兎掘スタイルである  
ジーンズをはき、  
小さなバツクー、  
外に荷物らしい荷物  
と持っていたり、  
のである。その上、  
真夏の熱い太陽に照  
らされ、全身汗に包ま  
れ、さらに兎掘の工  
でエガから下手で真黒

に汚れてしまっている  
ためには着替えなけ  
ればならない結果と  
なつたのである。  
そこで考古の運転手  
をしてもらった矢田君が  
三時のオヤツを買  
に行く時、佐々木さ  
んが矢田君の所に歩  
み寄り、そつと金と紙  
を手渡したのである。  
矢田君はなんの抵抗  
もなした紙をポケット

トに入れ出た。この  
であるが、この事が  
一時間後の矢田君の  
身の上には大きな変化  
が生じるとは、矢田君  
自身夢にも思わなかつ  
たと思つた。  
そして、しばらくして  
矢田君が買つた物  
から帰つて来たが、  
その時の顔が傑作で  
あった。目には天を見て

か、地を見ているの  
が分かる。顔は  
エラの張りきつた  
顔とこれ以上赤  
い出来なり程赤く  
に出来なり程赤く  
臨遊病者のよう  
な状態であらう  
である。矢田君が  
臨遊病者の  
ような状態であら  
うから帰つて来る  
時、  
ちつとアイツと  
う悲鳴を発したの

皆んなな、悲鳴の声を  
見ると、矢田君の足  
から赤い液体が流出  
して行った。すなわち  
足に全治一ヶ月以上  
の怪我をして行ったの  
がある。

足の治療の時  
「足にバインキングが  
入っているから足を切  
らなると死ぬわ」と  
先生が言ったので、  
我々は絶対好の機会が

であると思ひ先生の  
言葉に従上して、さ  
に染つく言った。  
すると今まで赤かっ  
た顔が見る見るうち  
に青褪め、目まじし  
起し、あぐりの栗  
には失神してしまひ、  
その上存ったので、  
我々は言葉面白  
下度転換し、「そんな  
事じゃ死ぬこと有り

と言ひ換えた。  
足の治療が済んだ後  
我々一同大いに心配  
し、「矢田君どうした  
のだ？」と尋ねた所  
「佐々木さんに買  
物を頼まれた時、  
「佐々木さんが洋品  
店に行つてこの紙を  
出せば解かるから」と  
言つて紙を渡され  
たので、すぐ気楽  
に気持で洋品店に行

つて店員に紙を渡し  
た所、店員が紙を見  
て、「ナイロンですか  
？」、「綿ですか？」  
「？」、「シルはど  
うですか？」とツツ  
さかか？「な」とツツ  
コクきくので気が転  
倒してしまつたのだ  
と言つたのである。

紙には、婦人用下着  
白色、Sサイズと記  
入されてつたとのこ  
と

考古の歩

今泉順策  
仲小坂：此知は坂  
戸町と川越市の堺  
にあり、縄文遺跡の  
多い所である。そし  
て、考古に入つて初  
めての発掘でもあり  
張り切つてやつた。

※考古学研究会に  
入つて感じた事。  
俺は、考古学に入

来年は卒業してしま  
う。しかし、考古  
の人間は、皆、良  
奴ばかりで、嬉しく  
思つてゐる。俺  
は、少しハンデイが  
あるが、それを乗り  
切つてできたのも  
皆のおかげである  
と思つてゐる。中  
も同年の矢田君や  
田君、根岸君には、

符に礼をのべたいと  
 忘う。それから、  
 後輩にも感謝する。  
 この時から、俺たちが  
 卒業しても、いつま  
 でも考古学研究会を  
 盛り上げていって、も  
 ういたいと思う。今  
 の後輩だ。たら必ず  
 出来る。とか、たく信じ  
 ている。

それから、想い出に残  
 るのは、合宿の終り  
 にやるフンパがある。  
 その時は、我を忘れ  
 てビールを飲んだり、  
 歌をうたったりして  
 ことごとく、普通話せ  
 たり。これも話せるこ  
 と。要するに、ガツ  
 フバウンな事である。  
 これからの考古を期  
 待しています。  
 The End

10、昭和四十五年  
 春の合宿

嵐の前

昭和45年春期合宿は、昨年  
 12月1日(10日)まで行なわ  
 れた冬期合宿と同じ所は  
 越生の前述べたところあり  
 の相像を絶つた。うなア  
 バウ屋で行なわれた。ただ  
 この合宿に、ついでに、今  
 までにはない、特異な要素が  
 加えられた。それは完全自  
 炊を行っていた。それは、自

考古研では今までの合宿の  
 たびに、大学の食堂と、れが  
 う三巻に書かれてあった。越  
 生の料理屋「漁愛」などで食  
 事をしていた。完全自炊を行  
 うのは、今回が始めてである。  
 そして、まず考古研ではこの  
 問題に対して、考えた事は、ど  
 うしてやっていくか、という  
 ことより、女子部員に、炊事  
 をやった。そこで、考古研では  
 よつてた。か、つての男子部員  
 と女子部員の戦争が開始した。  
 戦争といつても、この

場合、金曜日の時から第  
四夜、ネルでやるプロレス  
のようなど、論述戦をこぼさ  
は、なく、奥に湿度の高い戦争  
とある。奥に湿度の高い戦争  
である。そこで我々も、読者  
の時の事を思い出して、読者  
の事と一緒の、この戦争の  
一幕を見てみようと思ふ、  
まず男の子の意見としては  
料理といふものは、女性  
がするものである。これは  
習慣でもあるが、ひらたく  
言へば、了ダムとイブが二の  
世に生を執つて以来、男は  
外に出て、猫をし、食物を、他

供を育て、内に務めるのが  
とめであり、これが雄と雌  
の本能でもある。ところが  
悲しいかな、考古の女性  
段オセイジを言いたく、  
言えな、い、く、う、い、男  
性化して、皆さん  
が、仮にも、一、二、は、あ、く、ま、で、  
も、仮に、だから、ね、嫁、さん、に、  
でも、行、つ、た、と、し、た、ら、か、な、  
り、苦、勞、す、る、だ、ろ、と、こ、こ、で、  
考古の男の子は、深い、理、解、  
と、男、い、や、り、を、持、つ、た、人、達、が、  
苦、勞、し、て、い、る、と、思、う、と、非、常、  
に、見、る、の、に、忍、び、な、く、こ、れ、  
は、も、う、涙、も、の、だ、と、思、う、ん、だ、  
。だから、涙、も、の、だ、と、思、う、ん、だ、  
。だから、涙、も、の、だ、と、思、う、ん、だ、

な、車、が、な、い、よ、う、に、今、か  
ら、少、し、で、も、強、さ、せ、て、や  
ら、ん、だ、と、ま、あ、の、よ、う、に、  
切、丁、で、な、ま、で、に、言、つ、た、と  
ニ、ス、が、女、ノ、子、ハ、怒、つ、た、  
デ、ス、ト、テ、モ、恐、シ、カ、つ、た、  
ノ、デ、ス、。二、の、当、時、二、年、生  
の、カ、シ、マ、シ、娘、の、変、心、と、  
言、ひ、ベ、キ、。田、判、俊、江、と、  
保、明、子、。南、窓、子、女、史、を、始  
め、二、年、生、。一、年、生、の、女  
史、達、ス、ゴ、カ、ッ、タ、ネ、  
ッ、と、ヤ、ソ、ッ、と、口、聞、け、な  
い、の、。白、ブ、ツ、リ、と、し、て、  
の、。面、白、ハ、の、は、怒、つ、右、

各人がその人なりの特徴  
を生かして例えば、コニ  
タクト・レインズ、そのま  
ふ、つ、と、ば、し、た、り、逆、毛、立  
て、た、り、ひ、ど、い、の、は、床、板  
抜、い、て、く、や、し、が、た、り、  
可、哀、な、う、な、の、は、ホ、オ、が、引  
込、ま、な、く、な、つ、た、り、し、て、  
これ、が、全、部、自、前、だ、か、ら、立  
て、派、と、ゆ、う、の、子、の、意、見、と、  
そ、こ、で、女、の、子、の、意、見、と、  
て、は、今、回、の、合、宿、は、整、理  
の、た、め、祭、振、の、時、と、は、条、件  
が、違、う、と、し、て、違、う、と、  
か、と、い、え、ば、祭、振、の、と、き

は体力的に男と女の差が  
 あり、従って行う仕事も  
 自然に違ってくるので女  
 の子としてはある程度男  
 の意見に協力出来るが、  
 整理の場合男も女も行う  
 仕事は一緒である。従つ  
 て炊事について、男の  
 子の意見もある程度入れ  
 て我々が主力となつて行  
 うのに当り男の子も一緒  
 に協力して欲しいという  
 事であつてもないという  
 事がある。白旗を上げ  
 片づいた。しかしこの  
 専ら順を追つて書いて  
 いる。再こするが、これ

その時の合宿の毎日の話  
 題であり、後になつて一  
 番壊しい思ひ出となつた  
 のだから不思議である。

合宿その1

三月十日参加者は、参々後  
 々越生へと集まり始め、合  
 宿の準備にとりかかつてい  
 た。この日集まった人々はい  
 四年生が卒業の準備のため  
 無理として三年生松保明子  
 ・二年生市川保雄・沢田洋子  
 ・根岸コウメイ・佐野明宏・  
 夫田明、鈴木と子、一年  
 生和田直久、酒井正幸・山  
 中史子・依田和江のオール  
 スタールであつた。この日白  
 炊であるので勝手の場所が

一番問題となり、とどのつ  
 り風呂場を改造しプロパン  
 がスエス入れ、本来の勝手口  
 が我々の玄関となつた。こ  
 のようにシリメツレツの母  
 屋改造が城西大考古学研  
 究会の手により、本能にま  
 かせるまま行なわれた。そ  
 とで食器やらの自炊具がク  
 ラブ所有のものと鈴木さん  
 自参のもので大体そろつた  
 まではいいが、さてまた大  
 問題が起つた。計算問題い  
 と、これがなれてないという  
 か、これだけの人数をまか

さて三月十日の夜か  
 いらに自炊が始ま  
 子が大事なものか  
 何だと思へますか  
 場は出来上りプロ  
 も入れました。自  
 りまよねた。お  
 すよ況田氏のが水  
 井戸です。大事  
 は米なので。大事  
 よんで米がなすの  
 の前が暗くなるよ

合宿 その2

なうだけの釜がない。  
 ぐり例の如く例の如  
 ・が矢ともめにもめた  
 セニール沢田から珍  
 ホットな意見が提案  
 ぐちに釜があるって  
 これが(陰)の声。サ  
 皆よる二人だね釜が  
 たつてサー

|   | 1 類        |
|---|------------|
| 1 | 根岸, 矢田, 鈴木 |
| 2 | 市川, 沢田, 依田 |
| 3 | 松保, 佐野, 山中 |
| 4 | 田淵, 和田, 酒井 |

|   | 2 類        |
|---|------------|
| 1 | 根岸, 井上, 鈴木 |
| 2 | 沢田, 矢田, 依田 |
| 3 | 松保, 佐野, 山中 |
| 4 | 田淵, 和田, 酒井 |



トリーブの傍を譲ってくれ。  
当番の人も何のためらいも  
なくそれを受け持っている。そ  
して傍で仕事をしている。我  
々は、日常くり返されてい  
る姿ではあるが、その姿を  
見ている今日も、そろそろ終る  
頃と何かホッとしたものを  
感じるのである。

シ  
ル  
エ  
ッ  
ト

合宿も中盤である。私と況  
田は寢床の中で論議を重ね  
ていた。時計を見ると朝方  
の四時半である。話の内容は  
、低級なものから高級なも  
のまでいろいろとカラフル  
であったが、私達はこの時  
階下に寝ていたためである  
事件に巻き込まれてしまっ  
た。どこかで物音がして、い  
るのである。況田とじっとし  
て息を殺し、その音のする方

向を探して彼の顔を見ると  
オマエ行けという顔をして  
いる。瞬間私はオレと同じ  
事を思っているなとささっ  
た。いけないものを見て  
しまった。たあと第二の音がし  
た。どうやら二階である。  
二階は女子・先生・酒井・  
和田が寝ているはずである。  
私達はお互いにオマエが  
始めに行かない限りオレは  
動かないぞというポーズ。  
ラゲージをしていく。そ  
のうちに、歩く音が聞え始め  
階段を踏む音と変わった。

として私達の寝ている部屋の前に立った。誰だろうと少し明るくなつた。外の光を頼りにその姿を見ると、黒っぽいコートを着ている。どうやら男である。さらに良く見るとマフラーで頭をすっぽり包んでおり、背丈は中背で少々小肥りぎみ、寒いせいゝか体を縮め腰を曲げている。どう見てもその姿は、ドロボウ・カッパライ・スリ・チカンヤの他のタガイでどうしても大学の先生には見えな。況田がもしも間違えたら失礼だと気が

をきかせて「先生ですか？」と尋ねた。するとその姿のまは「そうだと答えた。やっとな心した私達は「今頃どうしたのですかと聞く」と、お前が彗星を見に行こうという車です。私達は先生よりもっとドイ格行になり、星の良、見える越生の忠霊塔へと掛けた。この彗星は、セキイケヤ彗星はセキ・イケヤ彗星と「この機会を逃したら六の年後という代である。坂の途中、寒さでエニストを歩いた車を降りた。山を歩き始めた。ア

声で私達は山の途中で少し明るくなつた空を見上げる。ブルブル・ブラツクのインクを二ぼしたような空に、浮白色のスジを引いたセキ・イケヤ彗星がやや東南の方向にあった。私達は不思議な気持ちで、始めて物に触れた時のように東の空をいつまでも見上げていた。

越生の町の明りが差してくる頃  
東の空には彗星が長いスジを引いて光っている  
空が少しずつ  
明るくなり  
彗星が消え始めた頃

彗星と「はに  
越生の町から  
三つのシルエツトも消えた

27

卒業式、中川さん十一

三月二十九日は、二期生の卒業式であった。前日中川さんがオヤジさんを供い越生の宿に入った。そこで中川さんが来たからにはコンパでもやらないと修まらない。もつとも、この合宿は神経を使う作業を続けているので我々は毎晩多量の酒を飲んでいった。この二日前にも、飲みついでに根岸と況田は二人で一升五合位を飲んでゐる。この日も中川さんの得竟のネジリ。ハチ

がここに面白い現象があつた。中川さんがオヤジさんに全々頭がよらないのである。そこでその理由を尋ねると、オヤジが何と言うと言つており、普段の中川さんの姿からはとても想像には絶つるのである。この日卒業式に参加したのは、先生と私に佐野・況田・酒井の諸氏達であつた。卒業式を終え私達は四年生と共にまたもやコンパをしようと合宿所へ引き上げに行った。しかし、席に唯一人およびでない顔も一人前の顔をして並んで

いた。十五夜のような丸顔立に小肥りで、さっきからどうぞとすすめる食物にも、そのたびに顔を赤くして遠慮してゐる。我々は我々で、何の感心も示さない。と気づかしてゐる。僕の弟を紹介しまあという清水さんの声に、やっとなんかの空気が少くなんだ、そして彼に最初の質問が飛ぶ。君も城西へ来るのかい？。のハイ、そうしようと思ひます、ロジャ、考古へ来る

んだ。○でもまだおは  
ン。彼は途中で帰って  
役達が卒業されてゆく先輩  
を囲み思い出し、笑ひ話  
くまで続けられていた。

✂



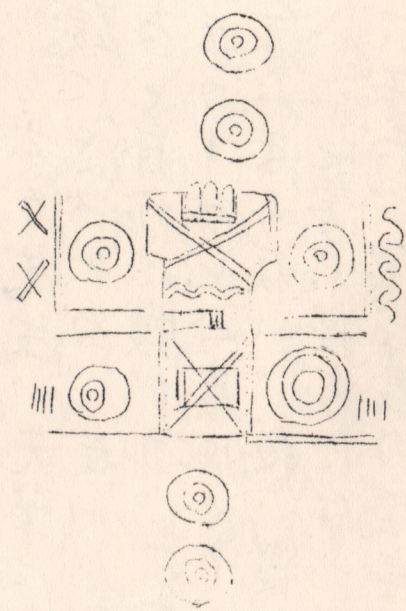
ある。土器実測には、正確  
に実測アラス。絵心が要求さ  
れる。そこでこの三人の  
に勞が始った。一つ出采上  
のし、すぐ先生の処へ走り  
込み、すぐ戻つて来ては、  
「え、込んでいます。此処が  
し、ロゼンチンがあるんだから、  
根岸君等は、最後に真剣に  
かつて、俺は、せうして、絵  
心が、な、い、ん、で、し、よ、う、な、い、  
しも、次は、き、つ、と、通、し、て、  
大い、ます、さ、え、！  
石器実  
測は、田刺さん、佐野君、  
和田君、依田さん、私、で、土  
器実測と隣り合せに作業を行

上は、実と線により、石器の  
及び、割れ口を遠近感を出し  
乍ら描き出してゆくのだが、  
土器実測と同じ様に神経と目  
を酷使する作業である。  
和田君、依田さんは初めてだ  
から例のボツと言ふ言葉に、  
しよんぼりしている。私と佐野  
君は、せうもイライラして来る  
と故意に大きな声で、この世  
に、こ、い、程、く、だ、ら、な、い、話、は、こ  
の合宿所に於いて他ない、と自  
負し、又、我慢出来るネ夕で慢  
才をやつており、特に佐野君  
は、この時、腰の具合が非常  
に悪かつた、と見え、おかしく  
なる、と例のボツをいれし、  
鉛

筆を鼻の穴に突込んで、  
「ア、ア」と言い乍ら考え込ん  
でいる。田刺さんは、常  
に棒杖の石器を選出、して  
は物想いにふける様なし、ぐ  
さでシヨシヨと丹念に描ぎ  
出して、いるのは、いつもと  
変らない。神経を集中させ  
て一日中やる仕事を云うも  
のは大変である。先述の  
三人ではないけれど、苦勞を  
重ねて、やつと出采上ると  
先生曰く、ボツ、それ、一言  
付け加える。此の線、返

しである。考え、  
て出采ない、んだら、  
が何回か線り返される、と、  
ツと云う先生、先輩に少  
頭に、さ、不、采、な、。それが過  
ると自分に腹が立、て来、  
そうすると、今度、は、く、や、し、  
て、た、ま、ら、な、い、。夜、寢床  
入ると、夢や寢言になつて、  
て来る。根岸君の寢言は、  
前巻でも好評であるが、  
響は、高まりつつある。合  
になる、と突如夜中に先生、

先生、土器が……と隣近所をたびたび困らせる。根岸、又かよー。そして合宿が終りに近づくとつれて先生曰く「ここにこし乍らゴヨイシ、この奥になるせー忘自分の仕事には評価がつけられる位に成長しているのである。」



城西大学考古学研究会

ヨハイ

任事が終わった後の風呂は、日本人なら誰もが好む。我々もまた前回の合宿に習って越生黒山温泉へと足を運んだ。この地では、この頃梅の盛りであり、休日ともなれば行楽客でにぎわい、我々もまた風呂の行き帰りにはその花の香りを楽しんでいたのである。その論議を呼んでいた。木さん、この時、二年生の鈴

いろいろ、そのころは、このころ、ヨハイ、早あ、の、梅、を、見、に、行、く、こ、と、は、夜、見、な、が、ら、風、

んだ、ふ「最近では、ニュー  
ルック」としてオートバイも  
あるぜ、早………  
し。

プラ・モデル

またもや荒井さんのがキの平  
態である。この時は、普段が  
ヤ・ガヤとしている任事場がシ  
ーンとする。そればかりでは  
なく皆人にさくられないよう  
任事を続けながら、その足  
音を気にしているのである。  
そのシーンとして、もうそ  
そと絶えられないのじゃないか  
な。という時には決って戸の  
開く音が、御倒着である。奥  
にグット・タイミンがであり  
、親・兄弟・親戚縁者などこ  
のがキを取り巻く人々がこの  
タイミンの取り方について

徹底的に英才教育を施して  
ていたのではなにかという  
疑いすら持たれる。そして  
、このがキの言う事には「オ  
トス」であり、次の言葉も決  
って「オイ、ウマにカバ  
いるか。」  
さて読者諸君は、この時折  
英雄並に扱われたいというオ  
がキ様はどこの誰だという  
お思いでしょうか、このオが  
キ様は本巻前書にも、もし  
て前巻南原遺跡にも書かれ  
ている荒井清次郎氏の第二  
息に当る方である。そして  
、この日私が鬼屋がいた

ので、コーラでも買、マ  
休みでもするかと民主々義  
の原則に従って提案したと  
ころ、満上一致で本件は可  
決せられましたので、よく  
民主々義のルールを実行に  
移すことになった。そして  
私は、このオがキ様があま  
りイタズラしないうちに家  
に帰そうと思いき、コーラを  
いに誘う、オがキ様がおっ  
しゃることはオレについて  
きよむというものだから私は、  
後に従うことにした。途中  
、荒井さんの家の前を通ると  
私達は、このオがキ様の母

佐野君は、なつとでも人に  
 差をつけようと思ひ一人だ  
 け高い一六の円のポルシェを  
 買ひ、皆からあいつの家、  
 買持たなしと思われたいた  
 。そして彼は、石器を見る  
 のと同じ目つきでこの一六  
 の円のポルシェを作っている  
 。鈴木さんは、複雑なら  
 いたろうと一番部品の多い  
 ジープをセメダインを使っ  
 った終み立てており、皆か  
 らがたいへん、夜になると  
 ベニヤ板の上で大ブリスが  
 始まるのである。ボクノが  
 一番早イヨシ、子ガワイ、

ボクンダイ、ウソヨ、私ノ  
 'ヨ、子ガワイ、ボクンダイ  
 'イケナイヨ、ソクナ  
 事シ、結局、スは一番  
 早く、われたものが負けと  
 なった。

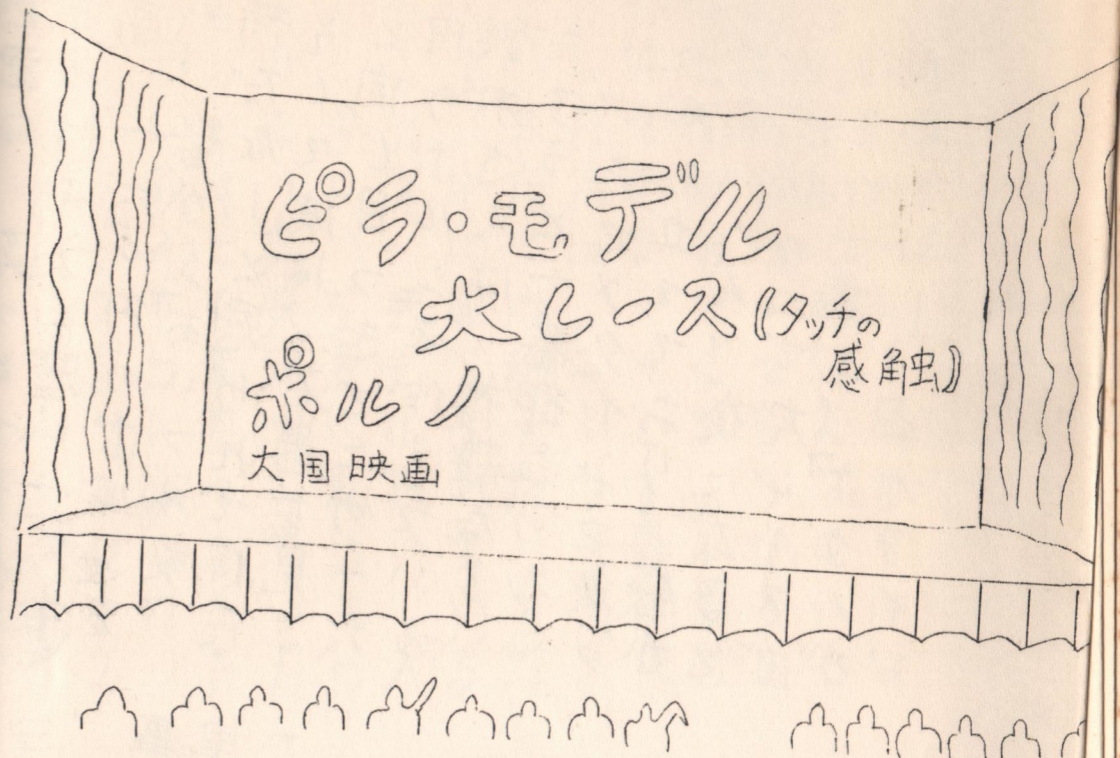
上に会ひ私が挨拶する間に  
 'ニのがきはニのがきはよ  
 りによつて母ちゃん、こいつ  
 が店知らぬって言うからな  
 っとな面倒みてくるよ小学校  
 四年である。そして最初に  
 入った店は、コーラを売っ  
 ている店とは緑も故りもな  
 い店、中に並べられてい  
 のはプラ・モデルだけ、入  
 んなぶといふ声に私はこの  
 時かなり意気消沈していた  
 もので、すこく素直であつた  
 。「オレ前カラコレ欲シカッ  
 タニダ、コレカッ  
 コイイナシ、コレカッ  
 て買わされたのは電池式リ

モコン戦車七〇〇円である  
 。私もくやしから、財布  
 と相談した結果ゼンマイ任  
 掛の二〇〇円のジープを一  
 つ買った。ところが、我合  
 宿所では、ボクノハ、ボル  
 ンだ。ボクノハ、ボル  
 私ノハ、ニ〇〇のGTヨ、  
 ボクノハ、マクラ、  
 ンダイ、誰モがプラ・モデル  
 であり、プラ・モデルを持  
 ったない。遊んでもらえな  
 かつた。休憩時間はたいへ  
 んである。机の上に買ひて  
 ある土器・石器をさきと  
 片付け、その変りにプラ・  
 モデルが乗るのである。

ミスター、パレクスト氏

人間には、誰もが限らず  
肉体的欠陥を、となえており  
自分の欠陥より、い他人  
の欠陥を見い出すことによ  
って優越感と安心感を持つ  
特に親しい関係にある  
人達は、物が言い易い  
があるせい、か言われる前  
相手の欠陥を指摘すること  
のみに全力を注いでいる。  
この世界にも先手必勝が  
んでいるのである。又我が  
苦楽部において、は多分、こ  
の事が強いせい、かも、事の原

因はいつもここから始まる  
「オマエノ方が色が黒イナ  
ソナコトナイヨ、オマ  
エノ方が顔が長いヤナイカ  
「デモサ、オレノ方が足が長  
イヨ、ダ」ソナ事言ハオ  
マエコソ、アゴニビラビラ  
付イテルヤナイカ」見れば  
出てくるものである。そこ  
で先生が提案するには「諸  
君一つここで投標によつて  
事を決しよう、いや、いか  
しはすぐ、ま、と、ま、つた  
れは名指しで投標すると殺



し合ひが始まる恐れがある  
 為である。そして議会は、  
 トツプから数えベスト、3  
 を沃める事として、三顔長、  
 三顔丸、三胴長、三短足、  
 三鼻下長、三トメクラ、三  
 タレ、三グロテスク、三ア  
 ンバランス、三ツコカを議  
 題として選んだ。この投票  
 の結果、晴れて議会の赤い  
 旗のタンを踏み、堂々と勝利  
 の女神のキスを獲得した人  
 々と紹介すると、以下のよ  
 うな結果となった。

- 三顔長 井上喜由 沢田洋
- 三顔丸 鈴木もと子 山中
- 史子 依田和江
- 三胴長 貞末先生 井上喜由 沢田洋
- 三短足 貞末先生 井上喜由 欠田明
- 三鼻下長 貞末先生 井上喜由 沢田洋
- 三トメクラ 松保明子
- 三タレメ 根岸孝明
- 貞末先生 佐野明宏
- 三グロテスク 貞末先生 井上喜由 該当者なし

三しこ女...  
 総計すると先生と井上君が  
 トツプ・ランクに座り、沢  
 田君と私が次点となって先  
 の二人が死んだ場合、くり  
 上選となる事になった。  
 三グロテスク・三アンバラ  
 ンス・三鼻下長など最もヒ  
 ドイとされる部分において  
 圧倒的な指示を得二人は、  
 野球でいえば打率・打点・  
 ホームランの三冠王である  
 。これだけ全部そろえばパ  
 ーフェクト・マン(完全なる男  
 でなくて何と言えれば良いの

であろうか、専門家の話で  
 は、これだけ一人の人間が  
 完全にそなえることはたい  
 へん難かしく、長い年月と技  
 術的問題が解決の要因と聞  
 く。そこで、悩んだり、怒  
 ったのがこの二人である。  
 本人達に言わせれば「オレは  
 そんなにビドクな」と言  
 のである。そして最後には  
 ビドイ者同志のけなし合  
 が始まり、この時は、師  
 弟の間柄を忘れ人間とい  
 う動物の本質に戻り言合っ  
 てハッ。和マエの方がオレ



可能するありうるもので、な  
るべく余計な筋肉は使用し  
てはいけないという生活の  
知恵が生れてくるのである  
一説によれば、こういう  
的セキ・クシヤミ・アクビの  
にぐいが一番いけないとい  
の心配されて、今回の合宿を  
として現実にした種がまた  
のである。今回の現われ  
に一つである。今日の競争率  
てはやはり抜群である。し  
か、このでは変った悩み  
の種があった。それは下の

方に水分がたまり過ぎてい  
るのである。だからという  
か、正確な国語の表現方に  
おいては一本であるうと思  
うのだが、表現上一つとい  
方が私は好ので一つにする  
が、一つ逸すと限るとい  
て良いほどたれた……位オ  
ッリをもらうはめに  
。ここで、私達はまたモヤ  
生との知恵というが、大学  
生というが、とにかく頭を  
働かせた。結果、行く時には  
限らず新聞紙を持って行く事  
にした。持って行く新聞紙

にっいては、毎日でも読免  
でも経でも日本工業新聞  
でも良い事になったが、私  
はどちらかと云えば朝日が良  
いと思う。そこで、この使  
用法だが、樹のヨイ、ドン  
の要領である。一つ落すた  
びに手に持ッている新聞を  
リッとして下に広げるのである。  
これは、しやがみ込んでや  
った方が良いのか？、それと  
も、いちいち立ッた方が良  
いのか？、それと、それ  
は、むしあそこの人の価値観  
に任せた方が良いと思うの  
だが、タイムミングだけは、や  
はりヨイトイ、ドンではな

うか？、するや、どういう  
訳か下に広げた新聞紙にパ  
ラパラと呉であしらった模  
様が現われる。そして、そ  
の呉々々になった部分だけ活  
字が読み易くなる。といった  
不思議な現象が生じるのだ  
である。ヨリがマヨトかは  
うないが、近眼の人には  
その回数が多かったという  
話を耳にしたものである。  
そして、もう一つ心配だ  
たのは、鍵英辞で、keyだ  
付いて、実際に付いていな  
のだが、実際に役には立た  
ないのがある。そ、井三君  
岸、佐野、沢田、井三君

いはい、よく心配だと言  
つては、駅や公民館まで、朝  
のマラソンに出掛けていた。  
ちやっぴ余計な事かもしれ  
ない。私自身も思うのだが、  
私の知って居る範囲ではマ  
ラソンに出掛けたのは、だ  
けであつた。さて、本題に  
戻すが、ある日、清水さんが  
久し振りに訪問され、あれ  
やこい、やして居るうちに、  
やはり清水さんも人間であ  
るから、催して来たのであ  
らう。入っちゃったんだな。

するると山中さんも同じ症状  
が現れたと見え、やはり  
下に降りていった。所が、  
何か声がしたかと思つて、  
物凄く勢いで、顔を真赤に  
して帰つてきた。どうして  
と聞くと、清水さんが居た  
と言つた。清水さん、我々  
としましては、清水さん、こ  
ろき行つたばかりだから、  
リヤ居るだらう。と答えた。  
所が、更に良く聞くと、  
いぢや、更によい。爆発で  
ある。皆、考える事は、清

水さん、どんな恰好して入  
つていたんだらう。と言う事  
ばかりである。そこで、我々  
は、そのプロセスについて膝  
を乗れ出して深く聞くと、  
山中さんは、トントんと戸  
を叩いたと云ふ。返事が無  
いので、誰か居ないだらう  
と、思い戸を引いたところ、  
物凄く重いので、これはボ  
ロ屋だから家の建てつけが  
悪いのだらうと思つた。尚引  
いたところ、なかつたが、  
なかつたやうな。しかし、  
マンも出る問題では無いので  
カを出した所、清水さんも  
出てきたんだらうな。所が、

清水さんの言ひ分として、  
入つて居ると誰かが来て、  
戸をトントんと叩く。こちら  
騒がしい最中なので、他人  
構つて居る暇が無いのだが、  
外の人々が戸を叩くやうな  
るので、驚いて戸をなんと  
叩けらぬ。様々に引っぱつ  
て必死にしがみついていた。  
何分にも、自分の姿勢がな  
んとも悪いので、踏んぱり  
が効かず、叩けらぬ。しま  
つたと言つた。両者の言ひ分  
を聞くと、私達は、それだけ  
なるほど、結果として、  
すいのである。常識として

は、イケナイ結果になつて  
いるのだが、本人達の言  
分には、それがい理解出来  
るという言葉、実に、どこか、暗  
み合ひないものが後に残さ  
れていゝ。そこで、我々の  
頭脳では、この問題を解ま  
ない事は出来ないので、問題  
の解決は、此れを讀んで、  
賢明なる読者諸君に任せら  
れて、私は、丁度良、落ち  
のついた所で、この章を閉じ  
て眠ることにする。こゝ言  
つたやうだが、人間と言つた  
は、こゝ言つた事になる。熱  
心に、書き過ぎる位に書く  
土がだが、読む方も、著者

に敗けずせばかりに読む  
ので可ね！  
その証拠にアタタも、もう  
一度、此の所を前より熱心  
に讀み直すに違ひありません

でも、それがいゝんですよ！  
人間は……

### 作者紹介

その1

前略！とラニ、とラニ  
この項は、作者紹介に  
なってます。特異なマス  
クと激しい個性を替  
ねそなえた四期生、変  
人奇人とそのグループ  
その一人々を思い出  
しながら、この項を讀  
んで下さい。作者とし  
ましては、エーヘン！  
と、マニズムとパー

ソスの上に、ユーモア  
をパラリとかけ、時代  
考証を加えて仕上げ  
てみました。火は中火  
で少し煮込んだほお  
が、およろしいと思ひ  
ました。なにか、アタ  
素材と、ゴザン、シヨ  
材料で、高に宅のよう  
の物価、高に宅のよう  
な安サラリマンで

は、ちよつとまかないか  
ねますノヨ！  
皆ッサン、この味なか  
なかいカシテルデハ  
ナイコト！  
陰の声腕が、いってこのかな  
ラサフ、このが、いこのかな  
デハ皆ッサン、オ風邪  
メシマセンヨ！ニネ。  
陰の声（風邪ってやあネ。）

後略

その翌  
四期生もいよいよ  
卒業をむかえるに当  
り最後の罪滅ぼしと  
ばかりに、この書を作  
製しました。が、一年生  
の春に共に参加した  
人々は、今では半分位  
になつてしまひ、ちよつと  
やそつとでは死にきれ  
そうもなない悪ばかり  
が後に残つてしまひま  
した。けど、そんな四年

尙題意識について、  
考へること時々多少  
ズレてはいます。ま  
文体一語だと思つ  
んで、だからこそ、  
うさがりも出来たり  
うし、けなすことも出  
来たり、だと思ひます。  
つまり、全員がライバ  
ルだ、ただです。ね、そ  
レ、それだけ各自が自  
分の立場から逃げず  
に、反対に挑戦して

さんだとも思っています。  
ごちから、全員そろって  
真剣に仕事をし、  
仲間を思い起すと、  
のすごく壊しい反  
響、ノッとする時もあり  
ます。そして、もう一つ  
一致する点は、全員が  
おもしろがりやばかりで  
あるから常に誰かを求  
めているんですネ。  
にかからけなしあてい  
に相手でも最後には

いつの間にか元通り  
になつてしまふんです。  
その子（市川兵衛氏）  
彼、ムッシュ市川は実に  
変な男である。一見  
した彼は音無しそう  
で人前では話もあま  
りしないように見え  
るのだが、真の彼は自  
分で納得しない事は  
絶対やらない半面、や  
り始めるからには

鏡とすべきものをい  
ぶら下げている。部  
会に於いても、納得  
しなない面がある。と、  
今、黙っていた彼  
が、<sup>「</sup>ヤッ、ト、マッ  
タ、と大声をあげる  
んだから、大向うか  
ら、<sup>「</sup>此の味、待って  
たんだね、と溜息が  
もれるのは当然であ  
る。こうなると、

舞台では、大物登  
場であるが、こん  
なハードな彼が、張  
つてある針金に長付  
かず、そのまま、駈  
け込ませ、ひっくり  
エルとこまでは、台  
本も書き忘れたらし  
い。神経が集中し  
て、た、た、た、彼ほ  
実に、バカバカしい  
で、お、お、お、の  
り、エ、エ、エ、である

から、彼のシヨールは、  
いつでも視聴率は、  
No. 1 であるのであ

その3(其上喜生氏)  
彼は、プロフェッサー井  
上は、実に愉快な男で  
ある。二年生の春に我  
考古研に参加し現在  
に到る若輩者ではあ  
るが、最近では常にホ  
ンと名前のるメリケ

みるというタイプ  
な点を常にそなえて  
いる。なを、昭和45年3  
月○日の夜半、所は越  
生のさる場所におい  
て、貞末先生とミス、  
パーフェクトマンをめ  
ぐる5回戦のチャンピ  
オンシップを行、堂々  
と勝利の女神のキス  
を獲得した。この後、  
口フエツサトを以  
てあることを後述し

ン製の驚怖のフル  
ン。一見するとこの  
彼は、常に全くおよ  
のない所にヒョッと現  
れ、これ一人、ハジを  
い、これ、エ、口のよ  
うに思われるが、注  
目(これは、なかなか他  
人に出ることを、は  
まな、)事、我身を捨て

ておく

(今泉順策氏)  
彼、カホネ今泉は、実  
に根性の男である。福  
島県は郡山から、  
ぼる上崎した彼は、  
口フエツサト井上氏と  
同期に我考古研に参  
加した。若輩者である  
が、さ、読者緒君ヨ  
なせ、彼が二年次に  
参考加したことが問題

である。賢明なる読者  
諸君は、二二で深く考  
えれば、いけな<sup>い</sup>結論  
を言え、考古研に根  
性たるものが何もの  
かあるかを自ら問  
かけたのである。何事  
についでとも自分から  
逃避せず、頑張りぬく  
不倒不屈の精神こそ  
彼が形容してあり、彼  
から根性を取り除  
たら何も残りやいと

いづれか帝王たる威  
厳であり誇りたので  
ある。さういふ彼にも  
ただ一つ身につけ  
離せぬものがあ  
れば、寝冷え予防の  
腹巻さなどという  
チヤウものではない  
帝王たる者そんな  
チヤウあかしもの  
しな<sup>い</sup>実を言うとな  
ラ<sup>ン</sup>シャ<sup>ー</sup>じや<sup>な</sup>い  
ヨ<sup>ロ</sup>ハ<sup>ー</sup>モ<sup>ニ</sup>カ<sup>、</sup>さ<sup>う</sup>

「<sup>い</sup>ニカ<sup>、</sup>さ<sup>う</sup>」  
あり、悲しい時の友  
もあつと、師は問うた。  
帝王たる彼が、この師  
の教えを實行するに  
ついで一番ふさわし  
い男なのである。

（佐野明宏氏）  
彼トクタク、佐野は、  
実にわかっている男  
の、一見しては、彼は、四

期生の中、一番体  
も小さい「ワンパクテ  
モイ<sup>ン</sup>、タクマシク育  
テ、欲シ<sup>い</sup>という言葉  
は、彼の為にある。しか  
し、実際の彼は、常にマ  
イ<sup>ペ</sup>、ス<sup>、</sup>を<sup>保</sup>ち、穴<sup>、</sup>ネ  
ライ<sup>、</sup>を<sup>目</sup>的<sup>と</sup>し、その  
小さい体を、日夜、駆  
し、続け<sup>て</sup>いる。シ<sup>、</sup>ン<sup>の</sup>  
音が、灰<sup>、</sup>ま<sup>り</sup>ない<sup>と</sup>云  
う彼は、西武園にその  
ホ<sup>、</sup>ル<sup>、</sup>カ<sup>、</sup>ラ<sup>ウ</sup>ント<sup>を</sup>

近き、後樂園・京王閣  
とか、な、外、駢がしい毎  
は、を、鏡、け、て、お、牛、夜、け  
女性、心、診、断、の、た、め、池  
壁、に、診、療、所、を、開、業、し  
たま、ご、ほ、い、い、が、メ、リ  
リン、に、い、る、ニ、ク、リン  
とか、い、う、男、が、彼、の、友  
人、達、に、い、い、ぶ、と、い、い  
ノ、ヨ、ク、を、年、え、た、為、診  
療、所、の、経、営、が、実、に、お  
か、わ、し、く、な、い、ナ、ン、テ、  
コ、ト、ヲ、言、ッ、テ、イ、ル、し、か

し、を、人、が、彼、も、友、人、と  
は、共、に、涙、を、流、し、悲、し  
み、を、合、け、合、う、と、い、う  
實、に、わ、か、さ、い、る、の、で  
あ、る、事、を、強、調、し、て、お  
く、(趣味、は、あ、ま、り、良、く  
な、い、?)

(沢田洋氏)  
彼、セ、ニ、ヨ、ル、沢、田、は、  
實、に、出、來、た、男、で、あ、る。  
初、め、で、彼、に、会、つ、た、人、は、  
誰、も、が、限、ら、ず、優、越、感

を、持、つ、と、い、は、ほ、と、素、樸  
と、い、え、ば、：、：、な、の、で  
あ、る、が、二、回、目、か、ら、は  
實、に、彼、特、有、の、臭、さ、を  
感、じ、る、。、そ、れ、だ、け、で、彼  
が、全、て、言、い、つ、く、さ、れ  
る、。、け、ど、そ、れ、で、は、面、白  
く、な、い、か、ら、先、に、続、け  
る、と、し、て、そ、の、反、面、責  
任、感、に、お、い、て、は、ま、あ  
り、あ、だ、が、ラ、ク、ニ、ラ、ク  
二、よ、く、子、供、の、使、い、じ、ゃ  
「、可、い、」、と、言、つ、て、い、る、の、を

私、は、か、つ、て、耳、に、し、た、事  
が、あ、る、。、最、近、は、趣、味、嗜  
好、を、か、ラ、リ、と、変、え、盆  
裁、に、釣、と、本、人、か、な、り  
ア、セ、リ、気、味、と、い、う、か  
少、々、風、邪、気、味、と、い、お  
う、か、結、果、は、こ、こ、で、話  
さ、な、い、方、が、本、人、に、は  
親、切、と、い、う、も、の、で、あ  
る、。、彼、の、欠、点、と、い、え、ば  
遅、手、な、こ、と、に、イ、カ、ル  
と、少、々、吃、る、こ、と、と、あ  
る、。、そ、の、彼、が、あ、の、す、ん

きかけんで座ている  
姿に出会った人は皆強  
烈なナヤミにおそわ  
れ、彼女の口レライ  
の人魚が奏でるよう  
な歌を耳にした人は、  
かなりのいきおいで  
ぶつにたてんだから  
ヤルモンダ！しかし  
だよ、全国のハハ諸君、  
内に秘めたファイト  
るやりのすごく一回  
やりだしたら必ず

やり抜く点などは君  
ナンダヨ。そんな彼女、  
私生活では料理、編物、  
火起しと女性の身につ  
りけるべき点は、高度  
の技術でこなすなど、  
彼女の線に近づく事  
では、一般的な女性で  
は、かなりの時間を要  
することを何年か  
ておくヨ！

（鈴木不孝と子女史）  
彼女、ストリッパ！鈴木  
不孝、実にカワイイ？

いサビシカリ家と聞  
けば、これはもう出来  
りとか出来たりとか  
の向題ではなく、実に  
出采過お話を話せば  
かろうかノウウ！  
セニョール！今買ウト、  
サッポロオリンビッグホ  
人ター！か貰エルヨ！

女の子である。現在  
歯学部二年生である  
が、考古研に参加した  
時期は、我々と一緒に  
余生の道にかける分  
その質、録にかける感  
過おまるのヤナ予感  
かスル。入部した当初  
長い髪と大き目の目、  
カワイイイルのついた  
を着た彼女が研究室  
の椅子にやうつむ

(根岸孝明氏)

彼、ルンパン根岸は  
実に頑張っている男で  
ある。常に向題意識を  
持ち日夜それを追求  
して、いる彼を見た  
と、人ははさどしかりし  
に頼りがある人  
を想像するが、天は二  
物を与えな、事は彼  
をして立証させられ  
る事がよくある。向題  
意識を持ち過ぎた彼

はその重みに耐えか  
ねる事がしほしほで  
あるが、その点、彼持  
ち前の人柄がその持  
とんどが力に、する  
のだから、神は常に正  
しい者の見方である  
スホーツマンである  
彼は泳ぐ事を除き、大  
体のスホーツをかな  
りの線ごこなし、私生  
活ではステレオに郷  
愁をひたりながら

行来を夢見る賢明な  
る読者諸君は、二二  
彼の顔を思い浮かべ  
てはいけな、彼に  
矢礼であるのがたま  
うなく楽しいと吹き  
出すまうな事を言っ  
て、いるが、クラブにお  
て接合、復元、大工と  
彼の右に出る者は現  
在、いない。結局、器用貧  
乏というところがル  
ンパンたる所以であ

る。彼は過去、現在、未来  
と頑張り続け、いる  
スーパーマン、クラ  
ク、ケントの申し子な  
のであり、本人も、それ  
については何ら疑い  
も持っていない。

(地崎越美子)

我が考古の紅一点  
鈴木女史が、いるには  
いさぎよく、男  
まじりの面を持つが

故に著者としてはお見事しかたの  
性... (こ) のしぐさ...  
大和撫子と言つたらほ  
めすき... (う) が、究に  
おとなし... 女性...  
る。(不) や、ホ... ハ、ネコ  
カムッテルンガヨ、ヤッ  
ハ) 化学科に在籍し、無  
機化学等といつたもの  
を専行しなから、反面  
で、しんせん組注隊  
眞の士方とし蔵にち

生んで小生が考古研  
につけた名(即ち、  
士方と土方の隊員と  
して活動して来た郷  
里は遠く越中富山の  
〇〇夕ンで有名な富  
山県どうまちが、たか  
知らないが、日本の文  
化の中心地。埼玉県  
に流れてきた。ま、ま  
こまごまは良かった。だ  
が、後が悪い。貞末内下  
生としての四年間が

か悪かたの... 卒業  
業後も居残る( )と  
う結果になつてしまつた  
とか... 願わくば、埼玉  
に骨を埋めようなん  
て考えたい。やめ、  
富山で素通な男性を  
みつけ、嫁さんになつて  
もらいたい。( )、モ  
... ( )、カ  
カネ( )、

さて、ドンジリにひか  
さしは... ( )、人物点描  
の欄を設けるに当り、  
この人物なくしてこ  
の欄はありえないと  
確信するに値するユ  
ニクク存在、その男  
とは考古の20面相ヤ  
ン、チンミン、大橋小泉  
(巨泉の申し子)カバ  
ん、エラちゃん、etc  
あげたら、キリの無い  
程の肩書きを持つ、

矢田明君である。誤解のないように断わっておくが、肩書が多いというのには、やり手である場合もあるが、彼の場合には少しちがひがある。人間時には、どうにも救いがたない様なオチコチイがいいるもので、その笑うに笑えない数多くの失敗や彼の温情味豊かな性格に對して、我々

が愛情たふぶりのニクネームをささげた様にならずである。では、プロフェッルをば一筆の背は高からず、低がみ(笑)で線の細さをといったらツイツイを連想させる位に丸々とつま先を真横に向けてテクテクと赤羽の町を肩ならぬエウがさす、榊空まで四年間、雨にも風にも女の

子の流し目に負けてず、片道二時間をかけ、一通いっづけた男が、ある説明だけ聞くと何かオバケを運想し、そうだが、實際は、さし絵の如く、温和の一度会ったら誰でも、ゴロニヤンと懐つきたくなさ様なやさしさを持つている。(かみつかないから、是非一度会って見るべし。)考古の一時期は、

彼なくしては語り得ない。彼は天衣無縫と、いか、無軌道という、か走り出したら、どこに行くかわからない。ブル共(注)我々は牛歳にゴザンスを生采の人情味でたくみにあやつり、今日の干しムロイクを任り上げる。原動力となったのである。彼は、中五代部長を、まきうけ、顔で笑って心

び泣いて家に帰って又  
 泣いて俱樂部の看板  
 として、非難の矢面に  
 立ち、考古丸の無事な  
 航海を念じつづけて  
 くれた。彼は、イザ、鎌八  
 倉という時には万難  
 を排して、先に駆け  
 つけてくれる男傑と  
 思う。最後に當り、彼に  
 「考古の輝」の称号をお  
 くりたい。彼は、考古の  
 心部なる欠点を洗練

後書き

最後にあたり、我々の手で『城西考古の歩み』第四巻  
 草創期を完成出しました事を、我々四期生がこの四年間  
 お世話になった貞末先生始め、諸先輩、並びにクラブを  
 通じて知り合う事の出来た諸氏に、感謝すると共に、  
 これからのクラブが歩んでゆく見聞録が大海を航  
 海してゆく船のように、海の向にある何かを求め、  
 挑戦的な野心を持ち、シゲの日には皆で協力して船  
 を守り、ナギの日には皆で楽しみを分けあう人間味  
 あふれた船海の中で、いつの日か海の如く広い心を  
 持った青年に育って行く事を祈ります。

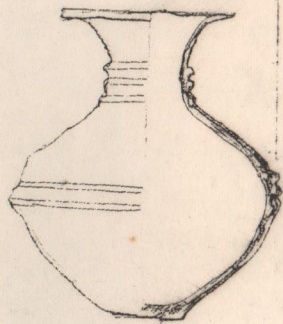


されたユースモアで覆  
 いかくし、「こころ一番」  
 という時には、キリリ  
 と締め、大事に當って  
 いた（に）くいな！  
 船ゆくば、こころから  
 その心構えを続け、  
 いて欲しいと思え  
 寿限無、寿限無

西 考 古 の 歩 み

第 4 部 草 創 期 1969

右の御  
意によ  
検印廃止



丁・乱丁の際はお取替致しかね  
す

集 考古学研究会 第4期生  
行 城西大学 考古学研究会  
刷 城西大学 考古学研究会

昭和 47 年 3 月 発行

